

精神障害者のリハビリテーションは、精神障害者が早期の社会復帰と自立した生活を促進するための重要な機能である。実際には社会復帰施設の不足とか、人的資源の不足などの問題点もあるが、積極的な精神障害者へのリハビリテーション活動も数多く紹介されている。そこで、精神障害者のリハビリテーションでどのような成果が上がっているか、さらに効果を向上させるための課題は何かについて各分野の専門家にまとめていただいた。

■精神障害者リハビリテーションには必然的にチームアプローチが必要

制度上の問題、コミュニティの変容によって生じる問題などに対して精神障害者リハビリテーションでは多面的な取り組みと、多職種のチームアプローチが必要であると著者は指摘している。そのためには、生活者としての精神障害者という捉え方、外来・病棟・デイケアを患者中心に一貫性を持たせる、看護婦・心理士・作業療法士・体育療法士などとの共同作業などが重要であると強調し、具体的なリハビリテーションの内容を呈示している。(西園昌久氏, 7 頁)

■精神保健福祉センターは地域活動の中核

著者の所属する精神保健福祉センターでの地域精神保健福祉活動の内容を呈示している。複雑困難事例への相談・技術援助、家族会・共同作業などへの支援、地域ネットワークづくり、在宅ケアを支える取り組みなど充実した活動を窺うことができる。とくに在宅ケアを支える活動が今後重要性を増すと予測している。精神保健福祉センターの役割をわかりやすく理解するのに適切な内容となっている。(小川一夫氏, 13 頁)

■デイケアは入院治療、外来治療の限界を埋めるもの

デイケアの普及がめざましいことを数字を挙げて示し、今後も発展していくものと著者は考えている。デイケアの役割は精神障害者一人一人の自立援助だけでなく、精神病院と地域の橋渡しをする働きもあると強調している。一方、デイケアを取り囲む制度上の問題、デイケア側の倫理性の問題に触れ、とくに倫理的な面についてはデイケアの原点に立ち返って議論することの必要性を説いている。(浅野弘毅氏, 19 頁)

■地域支援活動は楽しいものでなければならない

稚内市での活動を通して地域支援活動の在り方を述べている。地域支援体制は適切な精神科医療、働く場所・活動の場所、住宅環境の整備が必要であることを強調している。支援活動の内容は、楽しいもの、他の障害者との交流があること、市民の理解と協力を得ること、支援活動をシステムとして定着させること、多様な施設を自分で選択できること、が重要であると指摘している。(土屋 潔氏, 25 頁)

■メンタルヘルスを視野に入れた保健活動が重要

職場における就労やリハビリテーションの実状と見直しについて論じている。抱え込み事例の本質はノーマライゼーションの実践ではなく、障害を疑っているながら建前では健常者で仕事ができない人として曖昧に対応していることと批判している。精神障害者の就労、復帰後の観察などにも建前と本音から生じる問題がある。解決には職場理念の明確化、職場内での連携、外部相談機関の活用などが鍵になると強調している。(大西 守氏, 31 頁)